

## シンポジウムの記録

### 今、なぜ大学史か——その意義と展望——

平成二六（二〇一四）年一月二六日（水）、名古屋大学 ES 総合館 ES ホールにおいて、第二回名古屋大学  
大学文書資料室シンポジウム「今、なぜ大学史か——その意義と展望——」が開催された。一三時から一七時にわ  
たっておこなわれ、約五〇名の参加者があった。

本シンポジウムでは、寺崎昌男氏（立教学院本部調査役・東京大学名誉教授）の基調講演、瀬戸口龍一氏（専修  
大学大学史資料課長）、吉川卓治氏（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）、西山伸氏（京都大学文学館  
教授）、福岡猛志氏（日本福祉大学知多半島総合研究所長・同大学名誉教授）のコメントののち、寺崎氏および四  
人のコメントーターをパネリストとする討論がおこなわれた。

本号では、講演およびコメント、討論等の内容を原稿化し、当日の配布資料もしくはパワーポイントの画面とと  
もに掲載した。講演およびコメントの掲載にあたっては、大学文書資料室が音声記録をもとに原稿化し、それを講  
演者およびコメントーター本人が校訂した。

名古屋大学大学文書資料室

Nagoya University Archives Symposium II

第2回 名古屋大学 大学文書資料室シンポジウム

# 今、なぜ大学史か

## —その意義と展望—

これまで、多くの大学が年史の編さんをおこなってきましたが、最近になって、アーカイブズ（文書館）を設置し、自校史に関わる資料を収集・保存・公開するとともに、それらを活用して、自校史を学内・学外に多様な方法で積極的にアピールする大学が増えています。このシンポジウムでは、大学が自校の歴史を明らかにすることの意義をあらためて問うとともに、それが学術のみならず、これからの大学経営にとって持つ役割などについて展望します。

日時 2014年 **11月26日** 水  
13:00~17:00

主催 名古屋大学 大学文書資料室

会場 名古屋大学 ES 総合館 ES ホール

地下鉄名線「名古屋大学」駅3番出口すぐ  
※駐車場は用意していませんので、公共交通機関をご利用ください。

参加方法 直接会場へお越しください

入場  
無料

事前予約不要

基調講演

寺崎 昌男氏（立教学院本部調査役・東京大学名誉教授）

**大学沿革史編纂の効用を考える**

—特色の確認、アイデンティティの形成、そして自校教育—

コメント／パネリスト

瀬戸口 龍一氏（専修大学大学史資料課長）

**大学史編纂事業の意義と役割を考える**

西山 伸氏（京都大学大学文書館教授）

**大学史資料を展示する**

—京大での実践から—

福岡 猛志氏（日本福祉大学名誉教授）

**大学史とグローバルな視点**

吉川 卓治氏（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）

**『名古屋大学五十年史』からの展望**

※基調講演とコメントののち、討論をおこないます。◎／パネリストの表記は五十音順です。

お問い合わせ先 名古屋大学 大学文書資料室

TEL: 052-789-2046 FAX: 052-788-6222

E-mail: nua\_office@cc.nagoya-u.ac.jp



